東濃新報

㈱東濃新報社
〒507-0037
多治見市音羽町4-11-1
TEL(0572)22-4306
FAX(0572)25-0909
編集発行人　野村理華子

☆購読お申し込みは、電話、ファクス、Eメール（koudoku@tono-info.jp）のいずれかで、〒・住所・お名前（ふりがな）・電話番号をお伝え下さい。
☆購読料は月990円。お支払いは3カ月ごとから。便利な引き落としをおすすめします

「東濃新報」紙面および掲載記事や写真の無断転載、無断複製・配布による公開を禁じます。

陶都で期待集める民泊

多治見市民泊補助金第1号

エクシィズが「宿一景」を整備

タイルの製造販売を手がけるエクシィズ（本社・多治見市旭ケ丘、笠井建佑社長）は、同社の顧客や研修生のためのゲストハウス「宿一景」を同市小田町に整備した。同市が令和六年度に新設した民泊推進事業補助金の取得第一号物件でもあり、今年三月に簡易宿所の許可を取得。今後は、「民泊施設」としての活用も進めていく。

「宿一景」は、同社の笠井政志会長の実家で、大幅に改修して整備。ベッドルームを六部屋完備し、最多で十二人が利用可能な宿泊施設に生まれ変わった。

政志さんは昨年九月、自ら創業した同社を息子の建佑さんに譲ったばかり。「タイルを通して日本の文化・ライフスタイルを世界に広める」ことを今後のライフワークとしており、宿一景は、政志さんの思いが詰まった施設だ。得意とするタイル装飾や地元の陶製洗面ボールをはじめ、県産の木材を使った家具や照明、風呂、タオルに至るまで、県内の伝統産品にこだわっている。

県の"粋"を集めた宿一景

ことの発端は、スイスが国策として行っている日本での滞在制作プロジェクトに同社が参画したこと。昨年三月に同社での受け入れが決まったものの、ふさわしい宿泊場所が見つからず、政志さんは奔走した。そんな中、市の民泊補助金のことを知り、二年半ほど空き家になっていた実家を改修することに決め、自ら宿泊場所をつくることにした。

改修を決意したのは昨年七月初め。同月末の補助金審査へ向け、急ピッチで図面を書き、改装計画を立てた。八月に着工し、十一月には何とかスイスからのアーティスト二人を迎え入れた。

民泊施設としての活用に向けては、民泊新法ではなく、営業日数に制限がなく、同社にとって管理運営がしやすい旅館業法の「簡易宿所」の許可を取得。今後は、料金形態などを早急に決め、民泊の受け入れも行っていく。

なお同市の令和六年度民泊補助金では、同社のほか、陶芸家の深澤伊穂さんが古民家を改修して新設した「キンツギ・ハウス」（同市青木町）、同じく陶芸家の柴田節郎さんが増築した滞在型作陶施設の「HO―CA」（同市滝呂町）など、計五件に補助。新年度も当初予算に千五百万円が計上されており、一件につき対象経費の三分の二上限三百万円が補助される。

陶磁器産業や文化が根づく同市では、他の地方都市に比べ、多くのアーティストが滞在しているはず。一方で、焼きものの文化・歴史的背景を感じさせるような宿泊施設はほぼなく、今後はこうした民泊施設の増加や活用が期待される。

廃棄物燃料で原紙を

バイオマスボイラー2号機完成

恵那の東栄製紙工業本社

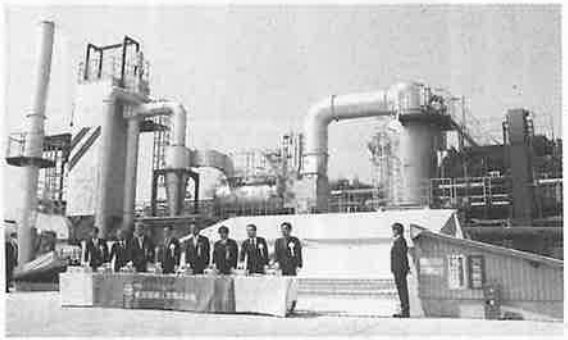
段ボール原紙メーカーの東栄製紙工業（高木應浩社長）は三月二十七日、恵那市大井町の本社工場で、廃棄物からできる固形燃料を使ったバイオマスボイラー二号機の竣工（しゅんこう）式を行った。

段ボール原紙製造の乾燥工程では、大量の蒸気を必要とする。同社はかつて、燃料に重油を使用していたが、十五年ほど前に二酸化炭素の排出削減を狙いにLPガスへ転換。さらにLPガス燃料の使用量削減を目指し、平成二十七（二〇一五）年にバイオマスボイラー一号機を建設した。今回完成した二号機により、同社で使用しているLPガスは約八十％が削減されるという。

かねてからリサイクル事業に積極的に取り組んできた同社は、一貫して百％リサイクルの段ボール原紙を製造してきた。回収した一般古紙や機密書類を再利用する際、紙の原料にできないプラスチックやビニールなどの異物が排出される。自社工場内で、これら異物を固形燃料化し、一号機の燃料に活用している。

廃棄物の固形燃料は、同社が回収する古紙など産業廃棄物を使った固形燃料化（RPF）と、家庭ゴミなど可燃性の廃棄物の固形燃料化（RDF）に分けられる。恵那市は、RDFに取り組んでいるものの、活用しきれずにいたため、同社の一号機では自社生成のRPFと同市のRDFを燃料にしている。

さらなる廃棄物燃料への転換を狙って完成した二号機では、自社生成のRPFだけでは足らず、大半を県外から購入しているという。高木社長は「今後はRPFの調達を地域でできるようにし、地域内での廃棄物の有効利用や地消地産を推進していきたい」と話している。



完成した２号機の「起動式」を行う関係者ら

竣工式には、小坂喬峰市長や地元選出の水野正敏県議会議長をはじめ、同社や工事関係者らが出席。神事に続いての式典では、完成したボイラーの前で高木社長らがスイッチを押す「起動式」を行い、完成を祝った。